



徳智修開の志高く ～はばたけ卒業生、伸びよ在校生～

校長 川島正晴

本日、第152回卒業証書授与式を挙行し、令和6年3月22日、45名の卒業生が、本校を巣立ちました。素晴らしい卒業式ができたことに、御臨席賜りました御来賓の皆様をはじめ、保護者・地域の皆様に厚く御礼申し上げます。



卒業生に贈る、校長の「式辞」から抜粋します。

幸手小学校の校是は、「徳智修開」です。明治11年に幸手小学校に掲げられたこの言葉は、「人として大切な知識や生き方を学び、学んだことを社会に広めて、役に立つ人になろう」という意味があります。

幸手小学校では、今年から、グループで協力して学ぶ授業を多く取り入れました。人を頼り、人に学び、人と協力して、最後は自分で問題の解決を目指して、粘り強く努力し続ける人になるためです。これが「徳智修開」で示された学び方や生き方です。実践してきたみなさんは、自信をもって進学し、人の役に立つ学び方や生き方を身に付けてほしいと思います。

苦しいときは助け合おう。辛いときは、辛いんだって言おう。あなたには、頼もしい仲間や信頼できる家族、温かい地域の方々がついているのですから。ひとりぼっちじゃない、支え合い、助け合って、これからも生きていきましょう。強い人ばかりじゃない。弱くたっていい。でも、最後は自分で決めて解決し、自分で歩いていく。そんな人になりましょう。

* * * * *

今年度も、保護者・地域の皆様からの温かい御支援と御協力により、学年末を迎えることができました。会長様をはじめ、PTAの御協力にも助けられました。ありがとうございました。

卒業式の在校生代表が語る「送辞」の中で、力強く「卒業生の築いた伝統と校風を、私たちが受け継ぎます」とありました。5年生の皆さん、明日からは、みなさんが先頭に立ち、幸手小学校を牽引していくのです。頼りにしています。よろしくお祈りします。

どの学年の、どの子ども、一年間よく頑張りました。大きく成長しました。御家庭で、26日に通知表を持ち帰ったときに、温かく、優しく、ほめて認めて励ましてください。その一言で、次の学年への、やる気とパワーがわいてきます。

保護者の皆様にも、大変お世話になりました。皆様の御理解と御協力なしに、学校の教育活動は円滑に進めることができません。本当にありがとうございました。

保護者・地域の皆様の御理解と御支援に感謝して、令和5年度の学校だよりを閉じます。一年間、大変お世話になり、ありがとうございました。令和6年度の幸手小もよろしくお祈りいたします。はばたけ、卒業生！ 伸びよ、在校生！ 4月に笑顔でお会いしましょう。

家庭・地域と学校で、4つの心「つよい心」「やさしい心」「いのちを大切に作る心」「考え律する心」と4つの力「思考力」「創造力」「チャレンジ力」「思いやる力」を子ども達に育てましょう。(心は育て、力をつけるものです。)